

ブレスト・インプラントによる乳房再建術を受けた患者様

日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会からの通達についてのお知らせ

拝啓 時下ますますご清祥のことと存じます。

この度、日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会より、BIA-ALCL(ブレスト・インプラント関連未分化大細胞型リンパ腫)についての通達(添付いたしましたので、ご参照ください)がございましたので、当該手術を受けられた患者様にお知らせいたします。

BIA-ALCLの多くはブレスト・インプラント挿入術後5-10年後以降に漿液腫(再建乳房に液体がたまる)で発症しますが、被膜拘縮(乳房の引きつれ)やインプラント周囲の腫瘍で発見された例もあります。早期であればインプラント摘出にて治癒する場合があります。無症状の患者様に特別な治療や検査が必要になるわけではございませんが、今まで通り、年に1回程度の乳房超音波検査は受けていただきたくお願いいたします。また、添付通達のとおり、しこりや腫れなどの異常を感じ場合には、速やかに受診してください。

いずれにいたしましても、当該手術を受けられた患者様におかれては、可能であれば、まずは当院を一度、受診されますよう、お勧めいたします。

敬具

平成29年10月13日

埼玉医科大学国際医療センター

乳腺腫瘍科 診療部長 大崎昭彦

形成外科 診療部長 横川秀樹

病院長 小山 勇

診療のご予約は包括がんセンター外来までお電話ください。

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1

包括がんセンター外来 042-984-0475

(受付時間日祝を除く 8時半-17時)